

11 湯道

ゆみち 熊野山33観音めぐり
しるばんばの里

多くの文人墨客が訪れた湯の里・天城湯ヶ島温泉には、素敵な出会いが待っている。「湯道」という散歩道がある。かつて里人や文人たちが共同湯へ通い、想をめぐらせた小道である。中でも幼い頃、この地に暮らした作家・井上靖の名作「しるばんば」の舞台となった湯処である。

修善寺駅から昭和の森会館行き湯ヶ島温泉行き、河津駅行きのバスで29分、湯ヶ島温泉口で下車。車利用の場合は天城会館に停めるとよい。木曽屋の角から湯ヶ島温泉への車道を入るとすべに「湯道」の入口。自然石の案内標から小道を下ると水路のある分岐。

水路に沿って右へ行き「木漏れ日の湯」から下るとなまこ壁の美しい旅館の先に「湯道」の記念碑がある。バス道に出た所が西平橋。橋の下に犬猫専用の温泉がある。近くには文



▲熊野山33観音



▲さくらの里公園



▲男橋（出会い橋）

人や里人が通ったという「西平の湯」（現 河鹿の湯）と川端康成ゆかりの温泉宿「湯本館」がある。河畔に立ち並ぶ温泉宿を見ながらバス道を行くと出会い橋の一つ猫越川にかかる「女橋」があり橋を渡った先には本谷川にかかる「男橋」がある。猫越川と本谷川が出会い、狩野川となって流れ出すこの地は、男と女が巡り会い、心結ばれて新しい人生を歩み始める出会いにも似た所である。夫婦が改めてここで出会いなおすと、より深く結ばれるといわれている。

元湯川屋の前から石段を上がり「梶井基次郎の文学碑」を見てみよう。世古橋を渡って瑞祥橋の手前から本谷川の上流へと歩き、つり橋を渡って水路沿いの細い道を再び車道へ出る。少し先を左に下ると出会い橋の男橋の入口。階段を上れば起

点の湯ヶ島温泉口のバス停。「熊野山33観音めぐり」を併せて歩くなら、水路沿いの歩道を元旅館「眠雲閣落合」の下をくぐって前に通った分岐を過ぎ、バス道に出て成就院へ。

成就院は天城六湯七福神の布袋尊を祀る古寺で、真山の熊野山には西国33観音霊場を模した札所めぐりがある。一番から観音様を見ながら緩やかに登っていく。18番は別名泣き観音と呼ばれ、悲しみを持った人の代りに泣いてくれる観音様で、21番は安産の観音様である。

登りつめると熊野山墓地公園。ここに井上靖の詩碑と墓がある。奥には小説「しるばんば」に出てくるおぬい婆さん（本名：井上かの）の墓もある。車道を下ると若山牧水の歌碑。33番を見てバス道に下り左に行けば起点の湯ヶ島温泉口に着く。「しるばんばの里」を歩くならば、このままバス道を横断し天城神社

弘道寺の裏に下る。弘道寺は安政4年（1851）米国領事タウンゼント・ハリスが下田から江戸へ東上する時に泊まった所で、山門左にハリスが書いた「日本滞在記」の一節が刻まれた「ハリス記念碑」がある。旧湯ヶ島小学校の正門には「しるばんば」の洪作少年とおぬい婆さんの像、北門には井上靖詩碑、校舎内には井上靖展示室があるが、見学は事前に予約が必要。

☎05598・83・5476

「上の家」は母七恵の実家。浅田金物店（廃業）は洪作と最も仲が良かった幸夫の家。

井上靖旧居跡はおぬい婆さんと暮らした土蔵の跡でアスナロ（イヌマキ）の木としるばんばの碑がある。



▲天城神社のコマ犬

コースタイム(参考) 所要時間：約1時間10分～2時間

湯ヶ島温泉口	60分	成就院	15分	梶井基次郎文学碑	10分	湯道の碑	10分	湯ヶ島温泉口	30分
湯ヶ島温泉口	70分	成就院	20分	瑞祥橋	15分	湯道の碑	5分	湯ヶ島温泉口	30分
湯ヶ島温泉口	70分	成就院	20分	瑞祥橋	15分	湯道の碑	5分	湯ヶ島温泉口	30分
湯ヶ島温泉口	70分	成就院	20分	瑞祥橋	15分	湯道の碑	5分	湯ヶ島温泉口	30分

井上家・おぬい婆さんの墓



▲しるばんばの碑



▲世古峽の紅葉